

第4期第10回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2019年6月25日（火）午前10：00～12：00

〔場 所〕 生涯学習センター 視聴覚室

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、太田 まゆみ、大野 浩子、白崎 好邦、鈴木 忠道、
陶山 慎治、辰巳 厚子、古里 貴士、服部くに子、向井 美子、米倉 茂
以上 11名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、高木事業係長、三橋主任（記録）

〔欠席者〕 ※敬称略

堂前 雅史 1名

〔傍聴人〕 4名

〔資 料〕 ・町田市生涯学習センターに求められる役割について（諮問）（写）

- ・2019年度 まちだ市民大学HATS事業検討委員会中間報告
- ・2019年度市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」申込書より抜粋講座概要
(応募時点)
- ・第8回町田市生涯学習審議会 会議メモ
- ・第4期第10回町田市生涯学習センター運営協議会資料（都公連総会、委員部会資料）

開 会

会 長：第10回生涯学習センター運営協議会を始めます。2カ月ぶりですが、今回は良い議論ができました。次第に従って進めます。

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・2019年6月議会で生涯学習センターへの一般質問はなかった。
- ・毎年実施している障がい者青年学級の事業が始まり、今月上旬に公民館学級、土曜学級、ひかり学級の開級式を順次行った。運営協議会からは白崎委員が出席された。学級生は来年3月まで、自分たちで思い思いの活動を考え取り組んでいく。例年同様ご支援をお願いしたい。
- ・5月25日恒例の利用者交流会を開催した。「カフェ」をキーワードに5つの分科会を設け、「共生社会」「子育て」「人生100年時代に向けた認知症と老いへの備え」など、様々なことについて話し合われた。また、生涯学習センターが地域に出向き講座等を実施する中で、そこに人々が集う「まなびのカフェ」というものが形づくられていけばという参加者の思いを感じとることができた。

（2）町田市生涯学習審議会今年度の予定について

事務局：昨日、今年度第 1 回目の町田市生涯学習審議会が開催された。そこで、資料にあるとおり教育長から審議会会長へ、「町田市生涯学習センターに求められる役割について」諮問があった。この会には柳沼会長が出席されたため、会長から報告する。

会長：資料の会議メモに基づき説明する。岩本委員の後任として初めて参加した。諮問内容の説明があった。生涯学習センターは設置後 7 年経過したが、社会情勢や町田市を取り巻く環境の変化を踏まえ改めて役割について検討する。審議会は今年度 6 回開催し、来年 2 月頃までに答申を確定する。

私から「公共施設再編計画との関連はどうか」質問した。「そちらはそちらで 2021 年度までに具体的な方向性を示す。方向性というか、理念的なこと、基本的な役割について改めて確認するという趣旨で今年度は協議してもらいたい。具体的な運営等細かいことは次年度以降の議論になるだろう」ということだった。会の進め方としては、10 月 23 日の第 3 回で生涯学習センター見学後に会議する。11 月中旬の第 4 回は主にヒアリングを行う。12 月下旬の第 5 回、2 月上旬の第 6 回で答申案を検討する。会長からは、校長先生、PTA や地域の関係者、社協など各委員それぞれの立場を踏まえて自由に意見を述べていただきたいという注意があった。

次に生涯学習センターの概要説明を生涯学習部総務課が行った。2010 年 3 月の社会教育委員からの答申に基づき 2012 年 4 月生涯学習センターが設置された。市制施行と共に設置された 60 年間の歴史がある公民館と 27 年が経つ市民大学を総合化して、更に個別に対応していた生涯学習支援にかかる機能をまとめて強化するという趣旨でこのセンターはできた。

次に現在の利用状況、主要事業についてセンター長から説明があった。委員からの主な質問で、「利用者の年齢や性別など属性についての情報はあるのか」というのに対しては残念ながら持ち合わせていないという回答だった。また、職員構成・任用資格者、ボランティアバンクの利用状況などセンター長から回答した。登録団体数は正確な数は分からないということだったが、今後は把握していく必要があると考える。

議論した主な内容としては、インターネットによる情報発信。NAVI やペーパーレベルの情報発信は良くされているが、今の時代、特に若い人たちや年寄りでもインターネットを使うので、インターネットによる情報発信は必要なのではないか。町田の生涯学習の中心となる施設が 1 館しかないので地域との結びつきが難しい。それぞれの地域で学びの場の確保が必要。例えば中学校、NPO 法人などの学びの場との連携は課題。社協のボランティアセンター、学校支援ボランティアとの連携なども進める必要がある。社会状況の変化としては、町田市においても外国人が増えてきている中で、受け入れる住民側の理解

の促進が課題。学んだことを社会や地域に還元する仕組みづくりを強化していくことなど、これから議論を進めていく。

<質疑・応答>

委員：諮問の中で、「市民の学習環境も大きく変化しています」と書かれているが、どういう説明があったか。

会長：あまり詳しい説明はなかった。7年前に比べてスマホなどが日常化している。それが学習などにも影響している。これからその辺の詳しい内容は明らかになっていくと思う。センターのことから言うと、例えば市民大学、ことぶき大学などの情報発信を、動画で発信するなど考えられる。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：報告内容は全て資料に網羅してある。簡単に項目のみ紹介したい。

- ・都公連は4月中旬に定期総会があった。活動方針や新役員が決定しスタートした。
- ・都公連役員会からの報告があった。毎年実施している学芸大連携研修の参加者が少なく、都公連主催研修をもっとPRした方が良いということで、3つの事業の関連書類を事務局から各公民館に送付することになった。
- ・来年2月開催の都公連研究大会の基調講演は昭島市が幹事市で「地方分権一括法関連」を考えている。
- ・第1回委員部会研修会の日程等がほぼ確定した。9月7日小金井市公民館90名募集。講師は越村康英氏。
- ・情報交換では、「公運審の役割とは」で意見を出し合い議論は終了した。現在まとめているので次回報告する。

(4) まちだ市民大学HATS事業検討委員会について

事務局：2019年度まちだ市民大学HATS事業検討委員会の全5回中2回が終了したため資料に基づき中間報告したい。委員構成は表にある通り9名で、運協からは辰巳委員、堂前委員、白崎委員に出席いただいた。互選で堂前委員が座長になった。第1回が5月14日「今なぜ、市民大学の検討が必要なのか」をテーマに実施。運協から2016年3月に「市民大学再構築に関する検討報告書」を頂いたが、この3年間検討していないため、これについて、または現状について話を始めた。職員から施設沿革・現状を説明。運協からは報告書の「地域を育てる」「全体の運営」の説明があった。例えば「地域を育てる」では、学習

を通してのコミュニティづくりや市民社会への参画など具体的に説明された。プログラム委員はそれぞれの現状を話した。意見交換の中で、テーマ設定やジャンル、グループワーク、コミュニティの再生について意見が出された。例えばテーマ設定やジャンルでは、移民問題、差別問題を一つの分野からの切り口だけでなく、総合やテーマ別という、人間学や法学、福祉など色々な観点から学習を進める方法もあるのではないか。グループワークでは自分以外の同じ講座を聞いた他者の意見を聞き入れることや、自分事としてとらえることが出来ているか。もしかしたら、そのためのトレーニングが必要なのではないかという意見が出た。また、コミュニティの再生ということで、受講するだけでなく、それを主体的に社会参加に位置づけられるような仕掛けが必要なのではないかという意見があった。

第2回は6月4日、市民大学にどういうビジョンを描くかということで、先ず市民大学の現状として職員から今年度前期の状況を報告。今、修了団体は44団体。修了団体は宝であるという意見も出された。実際にはどのような活動をしているのかという質問があり、修了者の〇〇委員や〇〇委員から、「色々な講座を開催している。一般市民の方にも参加できるよう開放している。ボランティア活動もしている。」また、事前にとった担当職員へのアンケートで、悩みや課題、良いエピソード、やってみたいことやこんな工夫はどうだろうかということなども提示した。意見交換の中で、担当職員はどのくらいの経験年数になると異動や任期終了になるのか、生涯学習センター以外の会場はどのように使えるのか。第2回の大きなテーマであるビジョンということについて、市民大学が何を目指すのか、どんな未来があるのかという話をした。具体的には地域社会との接点や大学の地域貢献や予算の課題など話があった。大学生が講座に係っている、さがまちなどの話もされた。講座のタイトルや階層性では「あなたを励ます」と「地域を育てる」の2段構えの階層性や、分かりやすいタイトルを付ける工夫もあるのではないか。明日第3回があり、7月8月に行い全5回を終える。

<質疑・応答>

会 長：第2回担当職員の声の「教育訓練休暇対応講座」とは何か。

事務局：委員の中から話が出た。

委 員：正確ではないが、働いている方が外で学ぶ教育訓練給付制度というもので、認定されている英語やパソコンの講座などを受けると受講費用の何割かを補填してくれる。若い人が受講するのに間口を広げるのではないかという意見であった。

委 員：休暇ではなく給付ではないか。

事務局：議事録の中に「有給の訓練休暇が取れるような講座が作れば良いのではないか」という委員意見がありましたので調べます。

委員：HATS のテーマ設定ジャンルで、Technology&Science がある。今テクノロジーが何もない。メンバーを見るとテクノロジーをつくれる人がいない。今生活の中でテクノロジーがないものはない。生活に密着した、みんなが興味をひくような講座。メンバーを補強するなど考えた方が良い。

会長：市が発行している「まちびと」には町田市でテクノロジーに詳しい人が多くいたので、活用を考えた方が良い。

事務局：HATS の A もアートなので今はない。新しいものを作りたいと思った時にどこでそれを決めるのか。全体を俯瞰的に見て限られた予算・人員の中でどうやるか、どう決めるかということで、この検討委員会をスタートさせたことをご理解いただきたい。

会長：今後の会議の中で意思決定の道筋をつけていくということですね。

委員：「修了団体は宝である」と、「町田市生涯学習インストラクターコーディネートの会」というのがあるそうだが、生涯学習センターとの関わりは。

委員：2012 年度までは、生涯学習コーディネーター養成講座があった。コーディネーターが必要ということだったが、講座は無くなり 12 年度まで参加した人で団体をつくり活動している。

委員：「文科省の社会通信教育講座の中に、認証制度というのがあるが、認証資格をとって、生涯学習センターと関わりがあるのか。

委員：直接的には関係ない。

委員：何人ぐらい把握しているのか。

委員：当初は 20 人ぐらいいたが、メンバーが別れて今は 10 人ぐらい。

(5) 2019 年度まちチャレ選考結果について

会長：これは今日の議題にも繋がっていくので少し時間をとりたい。

事務局：資料を参考に説明します。市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」というタイトルで、市民から企画を出してもらおう事業。4 月 13 日説明会を実施、出席は必須で 19 団体 26 名が参加。5 月 6 日までに 15 団体が企画を応募、5 月 12 日にヒアリングと審査を実施。運協からも白崎委員、太田委員、向井委員、古里委員、柳沼委員に参加いただいた。結果として資料にある上から 5 団体を採用した。これは、チラシや説明会でも基準を公表し、それに基づき同じ質問と個別質問を行い、審査員の合計点数で上から順番に決めた。既に 5 団

体には正規職員と嘱託員の 2 名が就き、会場や講師、テーマの文言など検討している。9月から始まり2月には全5回の講座が終了する予定。

<質疑・応答>

委員：落選理由は説明しているか。

事務局：特にしていない。問い合わせあれば、全体の結果と順番を説明している。実際に3件あった。

委員：講座を提案すること自体を学習として捉え、改善点を伝えることが次の年のチャレンジに良いのではないか。以前そのように決めなかったか。

会長：決めるまでにはいかず、それが望ましいということであった。時間的なこと等これからの課題と思う。

委員：結成時期の2019年が多いが、この企画のために集まってできたのか。

事務局：この企画のためにテーマごとに集まってできているものが多い。

委員：選ばれた5組の開催場所にセンターが多い。住まいの下小山田や職場の相原など向こうからでは距離感がある。交通の便の悪いところからも応募はあったか。

事務局：今回の選考方法・項目の中に地域資源、つまり「地域の市民センターを使う、地元の資源を使う場合はポイントを上げる、重視する。」と言っていた。しかしセンターは交通の便が良く、メンバーも市民だけでなく相模原などバラバラなのでセンターを使いたいという方が多かった。

会長：3番は南市民センター、8番は今度できる南町田パークライフサイトで、地域に属している団体は少なかった。

2 議題

(1) 市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進について

- ・まちチャレで提案された市民ニーズをどう考えるか
- ・市民ニーズをくみ取る仕組みづくり

会長：1年間このテーマで議論を重ね、前回4月の会議で実りある議論ができた。市民ニーズについて、各委員から出され共通理解もできた。〇〇委員に板書してまとめていただいた。市民ニーズをくみ取る仕組みは、アンケートもあるが、もう少し検討しなければいけない課題だ。具体的なものは、それぞれ皆さんの問題意識の中から生まれた。小学生、退職者、地域の色々な課題、市民大学、お母さん方に対してなど明らかになった。市民ニーズをどう掴むか精査が必要。現場に来る人の声だけでなく、もっと広い意味での取り組みをどうくみ取るかがある。しかもニーズは

それぞれ変化するもので、捉えきれない部分がある。それは **What** の部分。地域課題、孤独な人たち、母子家庭の問題など、なぜその学習が必要か、深めていくべきなのか、検討が必要と総括された。今回は、まちチャレで提案された学習ニーズや具体的に出てきた市民ニーズを皆さんがどう考え、学んでいくのか議論したい。審査をされた委員いかかですか。

委員：地域で抱えている問題を取り上げていることが読み取れる。子育て、健康、福祉。

会長：分類すると健康関係が一番多く、子育て、学習が続く。階層としては、子育て世代が4題、シニア世代が3題、困難を抱えているグループが3題、特定しないのが4題、女性問題が1題と、かなり広い層に行き渡っている。

委員：2番5番には点数を入れた。2番は視点が防災で、子どもたちをどう守るか、子どもたちに焦点をあてて防災教育をしていく。それには地域で共助していく仕組み作りが大切ということに共感した。5番は代表者の方が実際に高齢者を介護されている。生きることと死ぬこと、永遠のテーマだが、地域でどうやって最後まで安心して暮らしていくのか。地域で行うことによって次の人を育てていく・繋げていく。まちチャレとして意義があると思った。

委員：市民ニーズを年齢から探ることはできるが同じ世代であっても、家族に介護する人がいる、発達障がいの子どもがいる、経済的困窮なお宅の子育てなど、それぞれ自分の今抱えているちょっとした悩みや困ったこと、ちょっと先の親や子どものことなど自分の身近なことに興味がある。それがまあまあカバーできていると自分がやっている趣味などが良いから皆に広めたい、分かってほしい、という違いが見える。まちチャレの審査は前回もしたが、例えば高齢をとっても、自分が身近に悩みを抱えていないと認知を抱えた高齢者をどう扱ったらいいかという悩みに対して簡単な切り口も思い出さない。応募者の方たちは家で簡単に作れる介護食とか、切り口が面白い。ぼやーと全体でやると沢山の人が応募し、沢山の人が落選することになる。本当に今困っているニーズにスポットを当てると、対象者は少ないかもしれないが、例えば嚥下に困っている人は嚥下の講座にすごく来る。欲しいニーズを全部生涯学習センターがカバーできるわけではないが、高齢者を抱える家族など毎年何かしらの切り口を持って、このジャンルから1つ、このジャンルから1つというように切っていくと面白いのではないかと思った。

委員：今回初めて審査に加えていただいたが、審査は難しいなというのが最初の実感。落ちた団体に対して具体的に「あなたの団体はこういうところが不足で残念ながら落ちた」という具体的なアドバイスを返していくとなると審査の仕方を変えないといけない。今回15団体と数が多い中で、1団体20分で評価した。お返ししようと思うと点数つけて短いコメントつけるだけではダメ。例えば、順位が決定したあとに、1団体ごとにこの団体は何が不足していると思ったのか、評価した側が出し合ってまとめる作業をしないと難しい。数が多いとその時間は取りずらくなる

ので審査の方法を変えてフィードバックしやすい仕組みが必要と話を聞いて思った。私が興味深かったのは3番。提案してきた方々の問題意識の中に、自分たちのまわりには、生涯学習センターまで来られない人がいるという地域性をおびた課題意識がある。やっていることは地域性なく全国どこでもやっていることだが、本人たちの中に地域性をおびた問題意識があって、それを講座化しようとしていることが、私の中では大きかった。自分たちの課題意識の中に地域の課題意識があり講座化してくるといのはあまり多くなかったので、目を引いた。そういった提案が出てくる仕組み、呼びかけ、投げかけをどうやっていくのかというのはまちチャレの仕組みとしては一つ考えていく必要があると思った。

会長：仕組みについては、また、意見を聞きたい。子ども関係が多かった。1番目は子どもではなくお母さんたち、自分たちのケアを考えている意外性があった。

委員：チャレンジすることが一つの目的として大きい。企業の助成金をもらうのに発表する機会をもらおうと、準備をすごくする。話をし、皆で考え役割分担、集約する。機会事態が一つの成長なのでまちチャレ自体にチャレンジする企画自体はすごくいいと思っている。企業の助成金は落ちてでも落選理由は教えてもらえない。600も全国からきてそんなこと言われても困るだろうと思う。生涯学習センターがやるからこそ、大変ではあるがそういったアドバイスをしてもらえると応募する側としては嬉しいことである。難しいことでなくても、タイトルが良くなかったとか、対象を変えた方が良かったとか、場所を変えるとニーズあったのではないかとか、そういうのだけでもありがたい。最近、災害関係が多い。CAP（キャップ）に替わって今ブームなのか。関係ないが、町田にサポートオフィスができた。そこが色々なNPOに訪問取材をしている。何をやるのか分からないが、事務所に来てもらうというよりは出かけて行って色々なNPO、町内会を繋ぐ役割をしていきたい。「社協もなにかやっている、ボラセンも何かやっている、ぐちゃぐちゃになっている」のを紐解いて、整理して繋がりを新たに作りたいと言っていたが、そこが出てきて同じようなことやるなら意味がないなと様子見している。センターも情報を与えるという中間支援になればと思う。

委員：狙いと仕組みが合っていないという印象がある。外れて謝金が出なくてもやめるのではなく、どこかでやるのでは。皆さんがフォローをと話しているが、ならばもっとやり方があるのではないか。

会長：狙いは市民の参加を求めることが一番。それを職員が受け止めて一緒に作っていくのが狙い。予算に限りがあるので、不合格になる団体が現実にある。狙いとしてはそれが勿体ないというのがある。

委員：子どもに関して出てきているのが良い。しかし、防災の中で障がい者というのが出てきていないので、そこも考えていただければと思う。私たちの子どもは避難場所に行っても受け入れてもらえない状況の子たちが多いので、その辺も取り入れてほしい。そうすれば、地域の中でも色々話ができるのではないかと思った。私も

3番は興味を持った。看取りについて、私たちの両親も高齢になって、興味のある取組と思った。どれにも障がい者が関係してくる。高齢になっても、老人とはまた違うが考えていかなければいけない。そこまで踏み込んでくれれば嬉しい。

委員：まちチャレの申し込み状況を見て感じたことだが、地域の課題を探るといふときに行政が抱えている数字的データをいただければと感じる。最近では保育園が親のレスパイトで子どもを預かるという方向に色々動き始めている。働いている親も疲れた時に保育園に一時保育できるということも取りざたされている。子どもの備災も町田市は災害時避難行動要支援者名簿に子どもは載っていない。要介護3度以上、2度2級の障がい者、民生委員・町内会が共有している。町田の丘学園と話すと、大きな災害が起きたとき、この子が一人ぼっちでどうなるんだろうというのがあるので、その辺の情報を地域に出してくれると地域はそれをどうしようかと考え始めると感じている。厚労省も言っているが、25%ぐらいの方はご自宅で最期を迎える仕組みを作らないと最後を迎える場所がありませんよということになっている。町田市がしっかり分析し、その情報を出すと行政何やっているだという話になりがちだが、出す誠意が必要と思う。地域は、解決すべき課題を行政と共有出来て、住んでいる人が自分の中に担う役割を確認出来、足りない部分を学ぼうということになるとより具体的かなと思う。地域課題だろうということでも今やっていることは、町田市のおうちでごはん事業という、児童扶養手当を受給している世帯に2週間に1度無料でお弁当を届ける事業で、80食を届けます。貧困問題、弁当の食中毒の問題などについて社協と手作りで勉強会をボランティアに繰り返してきた。大変な問題なので逃げ出したいボランティアもいた。こういうところを生涯学習センターと組むとより充実したことができるんだろうなと思ったところがある。地域特性があるのでそこを地域とどう共有するか。地域に情報提供すれば「じゃあ取組まなくちゃだめだね」って立ち上がってくれる人がいてくれるのではないかな。でも「そんな重要な問題私できるかな」っていう人に必要な教育を学んでいただければ。何人かは怖いからできないって言う。お弁当持って行って、小さな変化でもいいから知らせてね、今ママたちが抱えている社会的な問題とか、多くの人たちと共有しながら取り組んでいく課題だと思う。町田市は地域活動するコンサルがいなかった。次世代のリーダーをどう育てるか。市民活動オフィスに期待したいところでもある。子育てしていて限界と言っているママに何か知識を身につけていただくことだと思う。生涯学習センターはそこに入っていくこと。まさに町田で今表現してくれている人たちの色々な気持ちがまちチャレに申し込んでくれていると思う。

委員：15件の内5件だけでは勿体ない。例えば、使い道で選ぶふるさと納税、町興しの地域の特定事業にふるさと納税を使う。特定の使い道を指定してクラウドファンディングでお金を集めると言えば、そこから原資を得られる。今回の講座タイトルを見ると、地元の集会施設の予約内容に結構ある。小山田桜台団地の掲示板や高齢者支援センター会議室の予約状況などを見るとこういうのをやっている。高齢者を含めて何が市民のニーズかわかる。

委員：まちチャレの狙いからいくと4番はかなり完成されている。まちチャレはプログラム作りを学習することが狙いなので、別の機会の講座で行っても良かったのではないか。

会長：色々な意見をいただいた。これを整理し、できるだけ次回に繋がるフォローも考えた審査の仕方に、改善の余地があるのではないか。できるだけ広く課題を知ることにおいて、現状の行政との情報の共有化が必要。出ていって色々な人の意見を聞くというのは、予算と人員が必要になるが、広くニーズを把握するためにはアンケートよりむしろ直接的効果的に色々な情報をとれると考えた。サポートオフィスで得られた情報も共有化できれば良い。

委員：「市民ニーズに沿う」とはどういうことか。教育委員会から委嘱されている協議会委員として活動を総括した上で意見を述べたい。市民意識調査アンケートでは生涯学習センターを知らない・利用していない人は8割。その理由は複数回答で、サービスが無いから、関心が無いから。NAVIを知らない読んでない人も8割と報告されており、2012年2017年の2回の調査ともに全く変わっていない。これは生涯学習センターの事業に対して町田市民の8割の人は関わっていないということである。この具体的事実をしっかり認識すべき。私の立ち位置はまさにここにあり、こうした市民の目線で発言している。市民委員の募集要項に「運営協議会は事業改善について協議する」とあったので、責任を果たすために、問題分析と改善提案をしてきた。その1、正しい尺度・新規受講者率の導入。その2、NAVI800万円問題、その3、はずれたらそれまでの抽選式から継続モニター的なエントリー式に転換、その4、形だけの間違ったPDCA事業評価の是正、しかし私の提案のみならず、他の委員からの提案でも暖簾に腕押し、スルー扱い。事務局に検討を促すこともせず議題として取り上げることすらせず、ましてや事務局から提案内容についてヒアリングされることも一切なく、それ以上議論が深まらず、残念ながら会議の生産性は低く、最悪と言わざるを得ない。そこで第1期から第3期までの議事録に目を通したところ、今と同様のやり取りが繰り返されていて驚いた。結局この1年間の議論で分かったことは、事務局は変えるつもりも変わるつもりもない。この協議会は全く機能していないということ。事務局はただ意見を聞き流しているだけ。予算内でできることだけをやる。いわゆるベストエフォート型事業と呼ばれるもの。仲間内だけでやろうとしている、その方が波風立たなくて心地よいから。それはまさに選択バイアスの罠にはまっていると言える。どういうことか、ほんの一例をあげると、「利用している。」「この講座はためになった。」「NAVIを毎号読んでいる。」「長年関与している。」こういった人たちの意見だけを取り入れていると偏った結論を出してしまう。これが選択バイアスの罠と言われるものである。でもその偏った結論で迷惑するのは市民である。先ほどから色々ご意見があったが、社会への啓発が大事。障がい者についても言われたが、大事であるならば、8割の市民の声なき声をうまく吸い上げていけるようにするのが市民のお役にたつところ、市役所職員のミッションである。今日の提案は2点、市民ニーズを吸い上げるための仕組みの実現。具体案は継続モニターの導入。アイデアソン実施など。例えばそういうこ

とをして広く意見を求める。もう一つ、運営協議会の進め方の改善。具体案はファシリテータ設置など。ファシリテータとはニュートラルな立場で議事進行する役回りのことで、複数委員の持ち回りでも構わない。ぜひこれは検討してほしい。ハッカソン、アイデアソン、マラソンのソン、言ってみれば、生涯学習センターではこういう事業をやっているが、皆さんアイデアを出してみませんかというイベントを行い、色々な方、学生も含めて、障がい者の関係なども募って、一日かけて議論を行う。元々はフェイスブックのいいねボタンのアイデアがでてきたということで世界的にやられている。例えば、スマホ版のNAVIを検討しているという話だったが、ちまちまと少人数で検討するよりも、もっと広く募れば、先ほどの8割が低くなり、もっと皆さんに分かってもらえるのではないか。

会長：色々ご指摘ありましたが、市民ニーズの汲み取りの方法としてアイデアソンと言う提案がありました。また、抽選方式からエントリー方式について、前から言われていたが、今日理解できた。

委員：そういう場を設けてもらえれば説明するのにないので暖簾に腕押し。

会長：運協の進め方の改善という提案があったが、これはゆくゆく議論していきたいと思う。

委員：今まさに「まちだ〇ごと大作戦」やっているのが、市民ニーズの汲み取りだと思う。色んなことやっている。職員も目立つところだけでなく、町内や色んなところに声をかけて、今までなかったところが出ているのは事実。ただ、それが無くなった時に自立できるか、継続するのかというのは別の話だと思う。

委員：私もホームページを見ている。いい機会だからそういうところでやれば色々アイデア出てくるのではないかと考えている。しかし、8割の人は何も知らない。

会長：ルートが無いということもあり、それをどう改善するかインターネットやSNSなども必要になってくるだろうし、〇〇委員が鶴川地区で実践しているLINEでの情報交換も参考になる。

委員：どこの地域でも同じだと思うが、町内会自治会の役員は60代、70代、80代、民生委員も60代、70代、地区協議会の役員の平均年齢は60歳後半で、その方たちが地域を見つめて「こうかな」と言うところが当初は中心になりがちだった。次世代のリーダーをとと言う話をし、そんな出会いも期待しながら、若い世代の地域に対する思いを地区協議会の活動そのものにとすることで、地区協議会でLINEの公式アカウントを取り、お友達登録お願いしますと始めた。皆で使い回ししようとなった時に真光寺中学校の校長先生から「今日、真光寺川の川沿いで不審者が出ているという情報をPTAに流しているが、お父さんお母さんはほぼ地域にいないので、受け止めきれない。それを地域で受け止めてくれないか。」と言う話があり、今、校長先生たちから下校時に情報をくれると、友達登録している人たちに流すというのを始め、それなら私も、私もと広がってきている。そんなネットワー

クが地域づくりの中でも機能し始めている。リアルな町内会に入っているのは50%だが、SNSの町内会には80%入っているという風にしたい。その中で、間違っていて本当に町内会の役員になっちゃう人もいないかみたい。

会長：知らないから。知るのが大事。別なご指摘ありますか。

委員：市民ニーズを取り上げるって様々あり、統計資料をじっくり見ているわけではないし、ここに皆さん集まって意見を出すのもニーズを吸い上げる一つの方法。市民いっぱい集めてブレインストーミングみたいなアイデアソンやったりするのも一つの方法だが、私たちが今ここでできるもの、手を付けられるものからやらないと、いろいろ意見出して出しっぱなしで今年も終りねっていつもいつもなってしまう。私は前回の皆さんの議論聞いて、それぞれの立場から発言していただいたので、例えば〇〇委員、今回は子どもについて問題提起いただいて、他の人たちは子どもについてどんな情報持っていると、世代間交流でこんなことできるかなと出してもらったり。次の〇〇委員のときは障がい者としてこんなこと困っていて、こういうことしてほしいんだけど、学習に結び付きますかって提案していただければ、また皆が情報を出すようなかたちで。ここでできるもの、本当は必要なもの、できればやってみたいもの、など少し分類しないと、やることいっぱいありすぎて、どうやってニーズ掴むのかって、また言いつぱなしで終わってしまう。

委員：〇〇委員の話、ごもっともだと聞いていたが、ここと行政の立ち位置って、私たちが言ったことを行政が実行するのではなく、共有しながら私たちが動くっていうことをしていかないと広がらないと思う。ここで議論したことを「何回同じこと言わせるんだよ」ではなく、言った私たちが活動する、行動するということに変えていかないと一向に変わらない。市民が当事者だから。私たちが当事者なんだ、行政との役割を明確にしながら、それぞれのセクションだったり、それぞれの地域に持ち帰り、形を変えていくという風にしていかないと、敵対して何も先に進まない。

委員：賛成だけど、先ほどベストエフォート型事業で誰も食いついてこなかったが、生涯学習センターが何をやるのか、例えば、子どもについても市役所の中に色々セクションがあり、本来そこでやるべき事業もあるのではないか。その仕分けができていない。〇〇委員の意見にのれば、そのところはギャランティすべきところはしっかりして、その上で〇〇委員の分割して子どもはどうしましょうかとやるべき。そうしないと、本来ここだけではやり切れない部分まで皆さん議論しているのかもしれない。町田市役所にはいろんな課があり、本当はそこでやるべきことではないか。生涯学習センターは何をギャランティするのか、ここで共有したほうが良い。

会長：時間もないので次回以降で議論しますが、例えばまちチャレの「議員の半数は女性にしたい」などは男女平等推進センターで取り上げた方がはるかに合っている

のではないかと。外国人の問題も、国際交流センターがある。しかし日本人側の問題であれば広がってくるということもあり、ここが仲介している色々な所と問題意識を持ちながら共有化し、対応していくことが必要になっていくと思う。〇〇委員が言われたように、色々な人の立場で課題が出てくるので、事務局と私で整理して事前に配布して考えていくという対応をしていきたい。

委員：庁内各所の情報をもとに会長がまとめられるのなら良い。

会長：今日の議論は宿題を残しながらまた継続して検討していきたい。

3 その他

(1) 2019年度日程調整について

事務局：10月以降の日程について現在調査中のため調整し、次回報告します

次回日程：日時 2019年7月25日（木）18：00～20：00

会場 生涯学習センター視聴覚室